

在宅介護実態調査 報告書

調査概要	2
在宅療養者のプロフィール	3
介護者のプロフィール	4
1. 在宅療養に関する最終アウトカム指標	5
2. 「在宅生活の継続」に関するアウトカム指標	6
3. 「介護者の就労の継続」に関するアウトカム指標	8
4. サービス利用の状況	10
5. 介護者の介護負担と仕事との両立について	13
6. 介護者の不安について	15

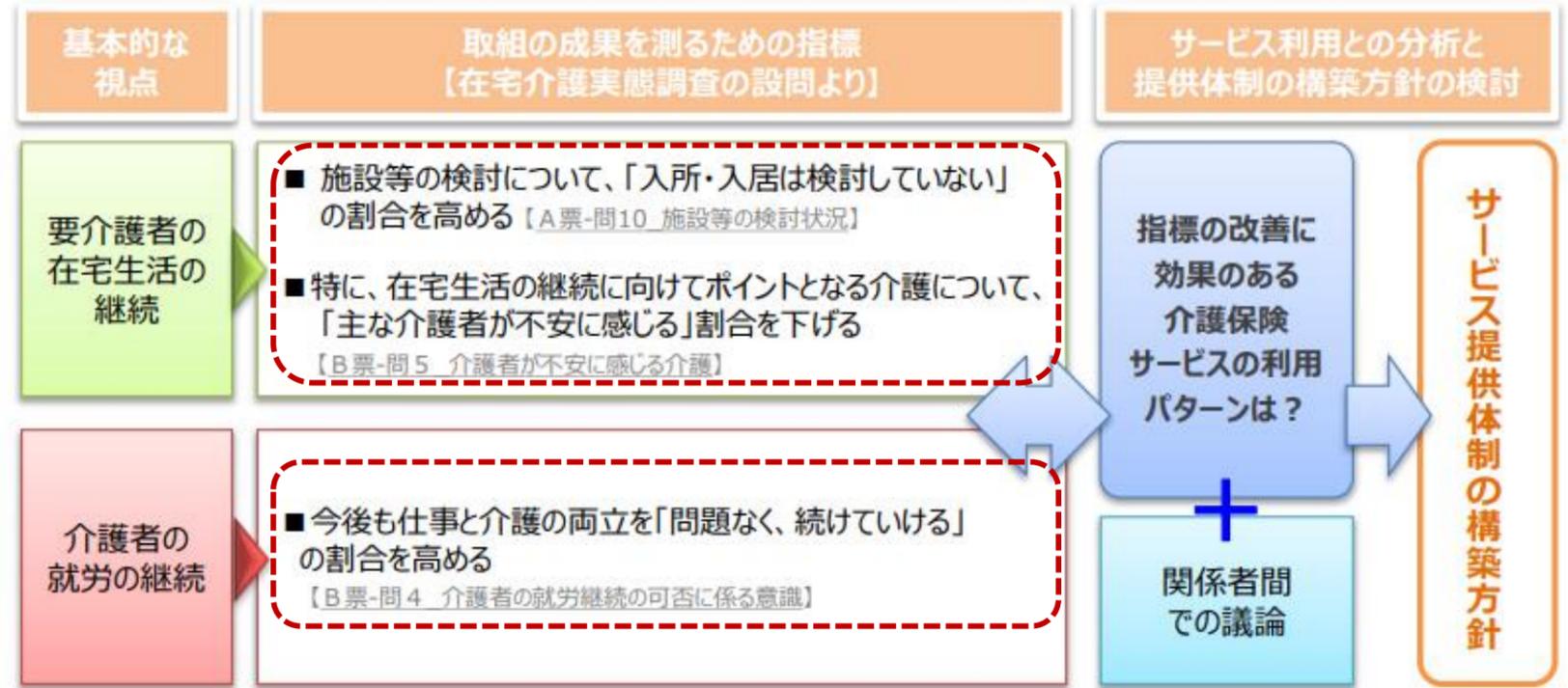
2023/03/29

【調査概要】

調査の目的

- 「要介護者の在宅生活の継続」と「介護者の就労の継続」の2つの基本的な視点に基づき、「サービス提供体制の構築方針」を検討するために実施する調査

<基本的な視点を踏まえた方針の検討のイメージ>



調査の概要

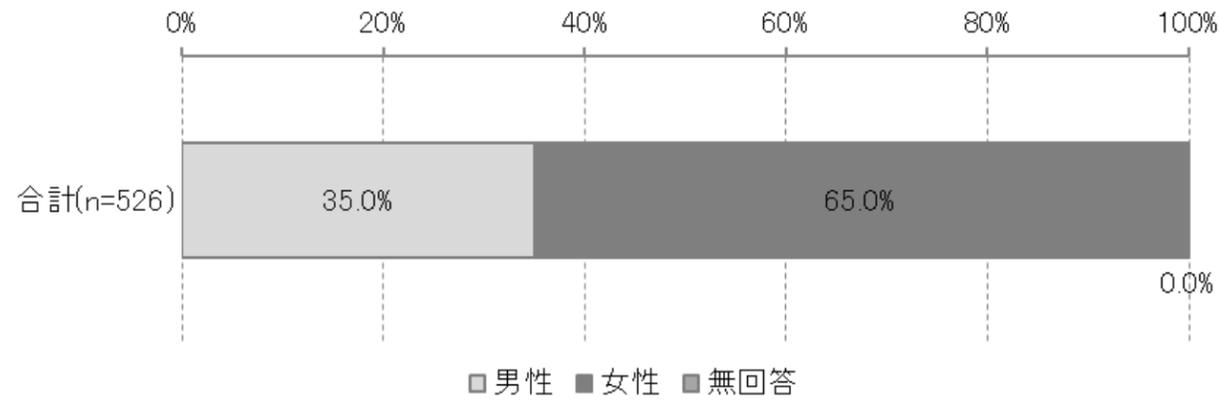
- 調査時期：2022年11月～2023年2月
- 対象：要支援・要介護者
(更新申請・区分変更申請をし、対象期間中に認定調査を受けた方) とその介護者
- 調査方法：認定調査員による聞き取りおよび郵送調査の併用
(基本票A票/介護者への質問票 B票)
- 集計方法：国の配布する自動集計ツールを用いて被保険者番号で認定データと突合させ集計
- 有効回答数：526件

検討すべきポイント

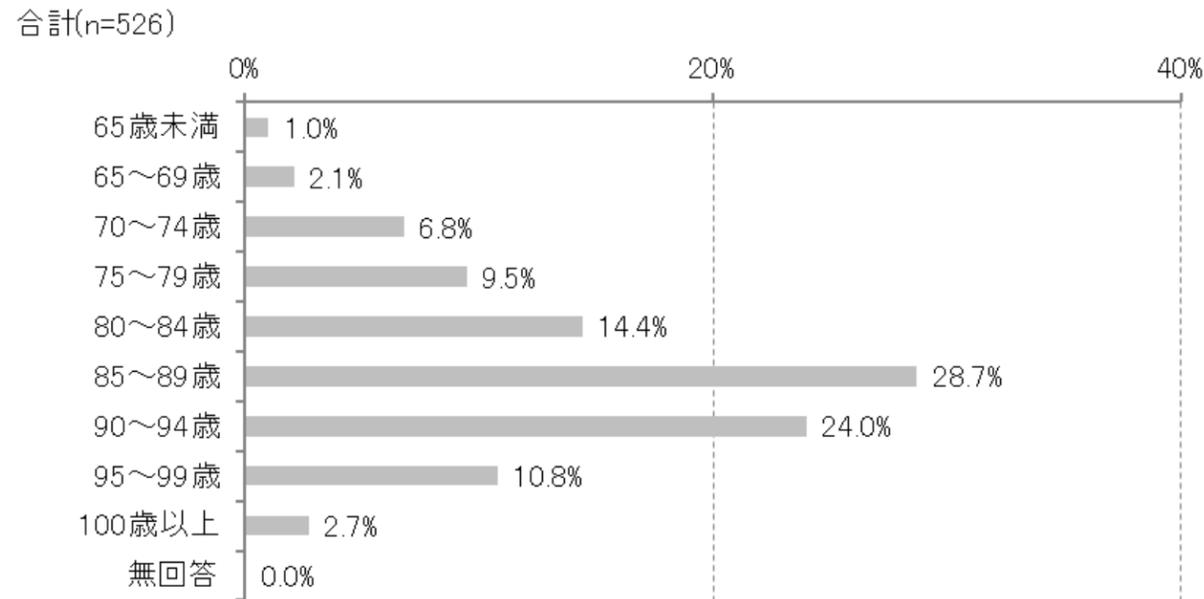
- 要介護者の在宅生活の継続・・・在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討
- 介護者の就労継続・・・仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討
- 【支援・サービスの提供体制の検討】
- 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討
- 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討
- 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

在宅療養者のプロフィール

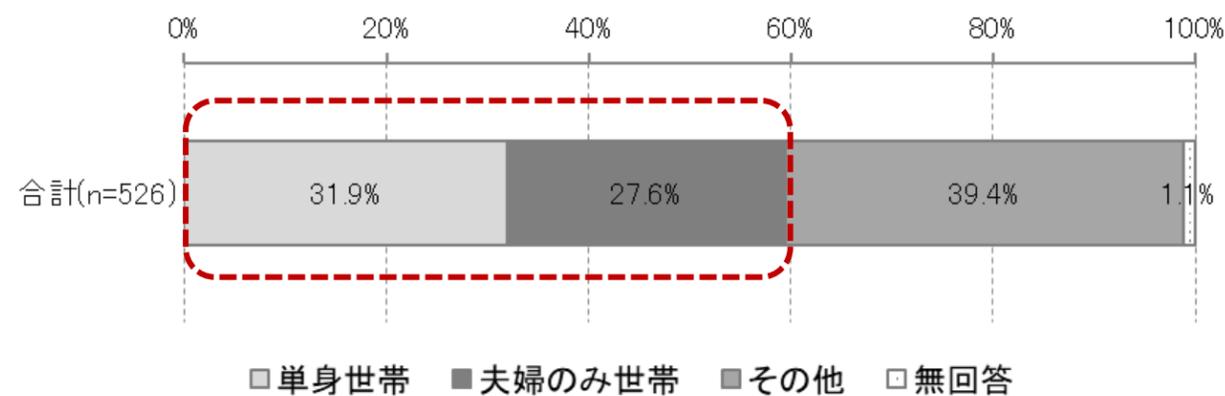
■ 性別



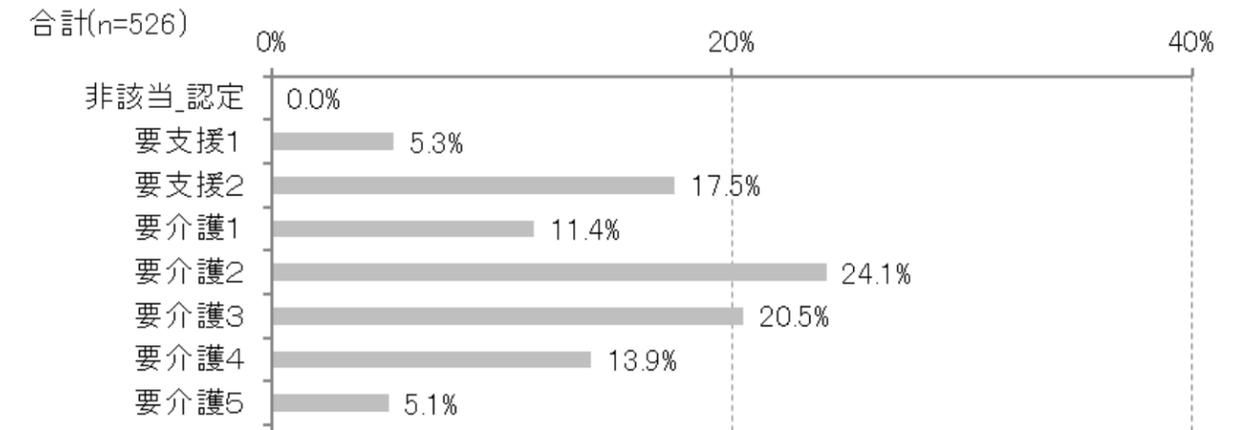
■ 年代



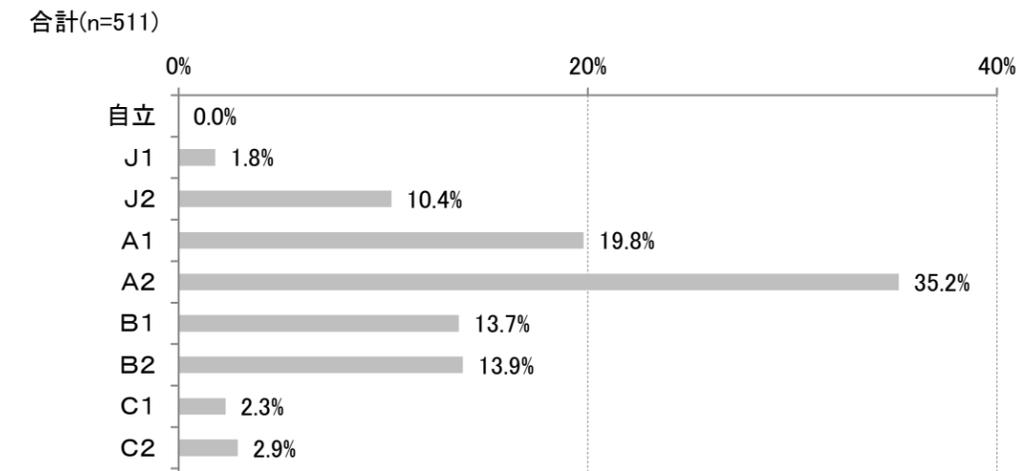
■ 世帯類型



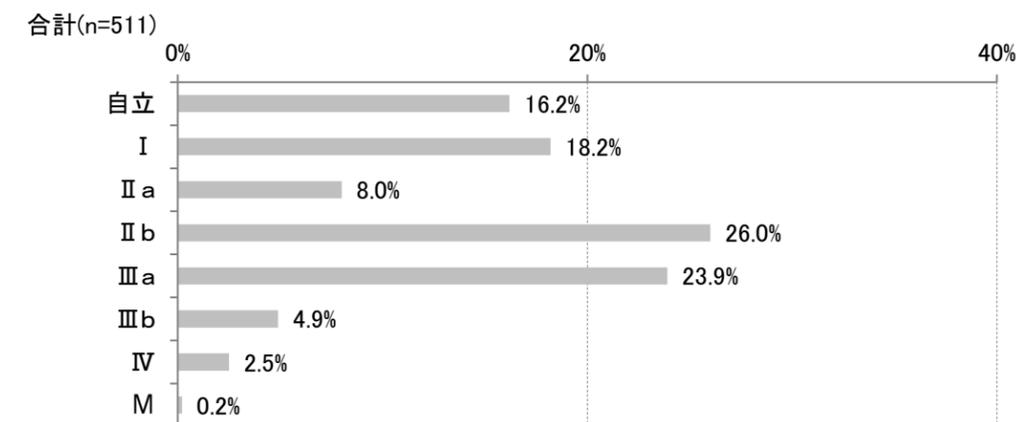
■ 要介護認定（二次判定結果）



■ 障害高齢者の日常生活自立度

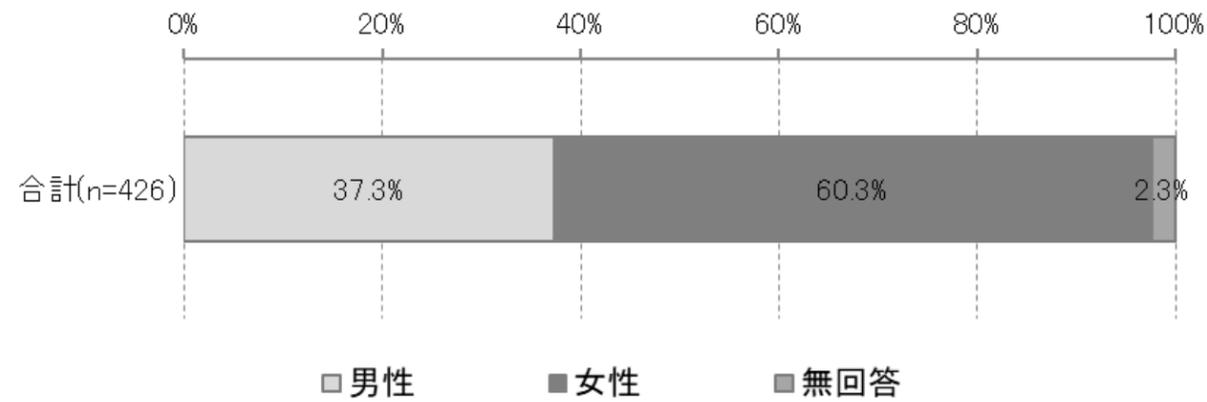


■ 認知症高齢者の日常生活自立度

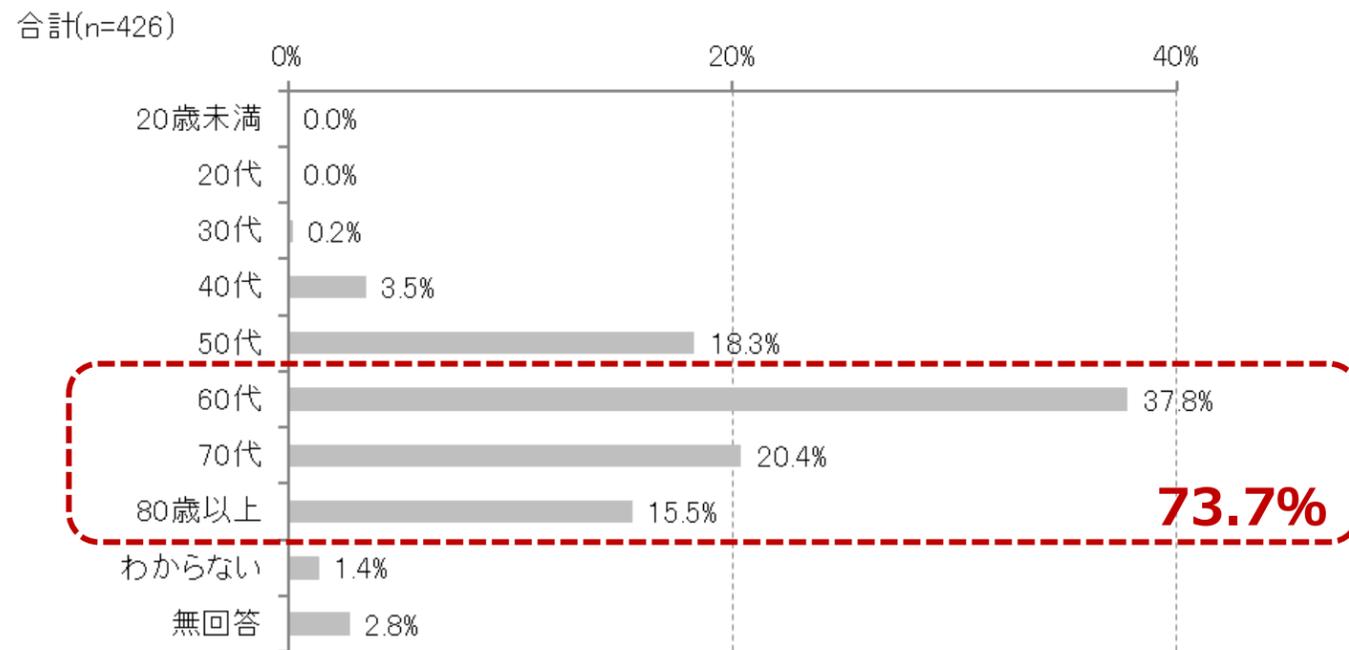


介護者のプロフィール

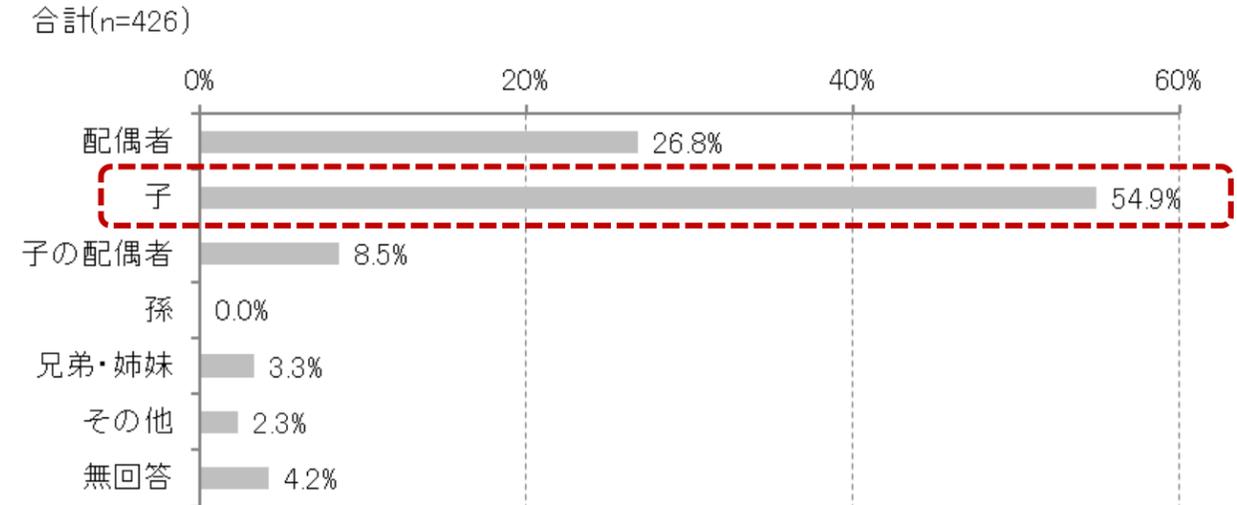
■ 介護者の性別



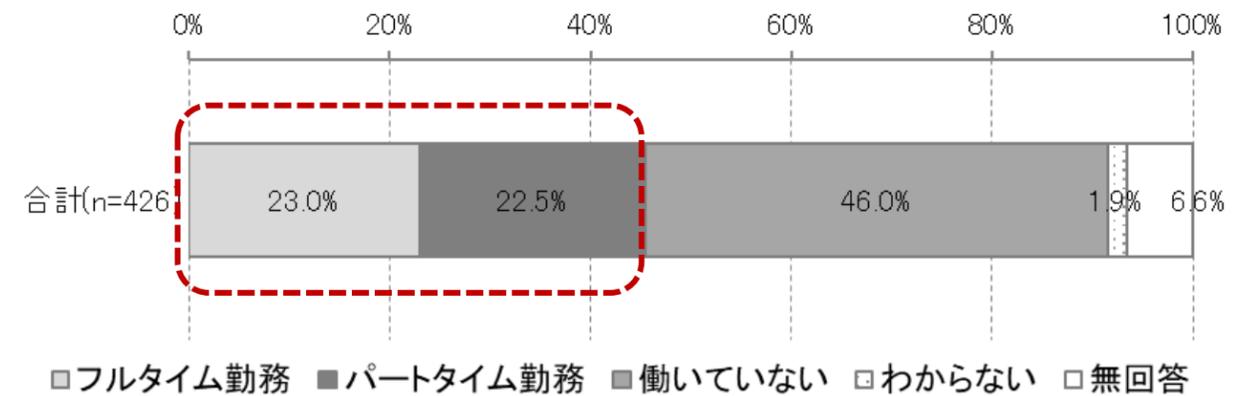
■ 介護者の年代



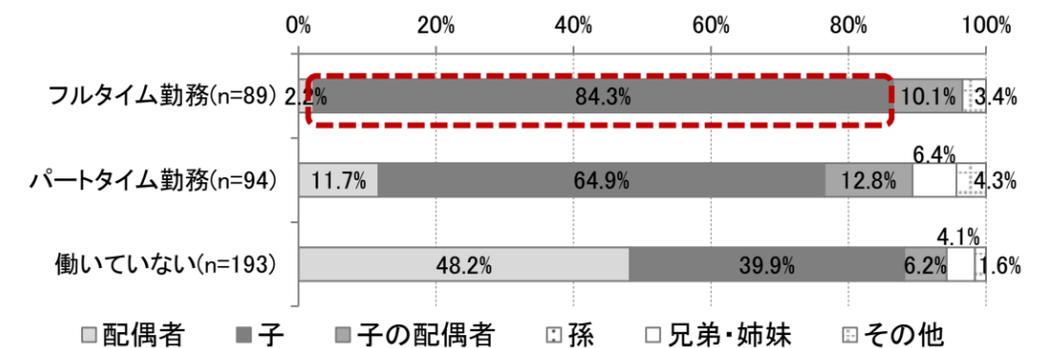
■ 介護者と本人の関係



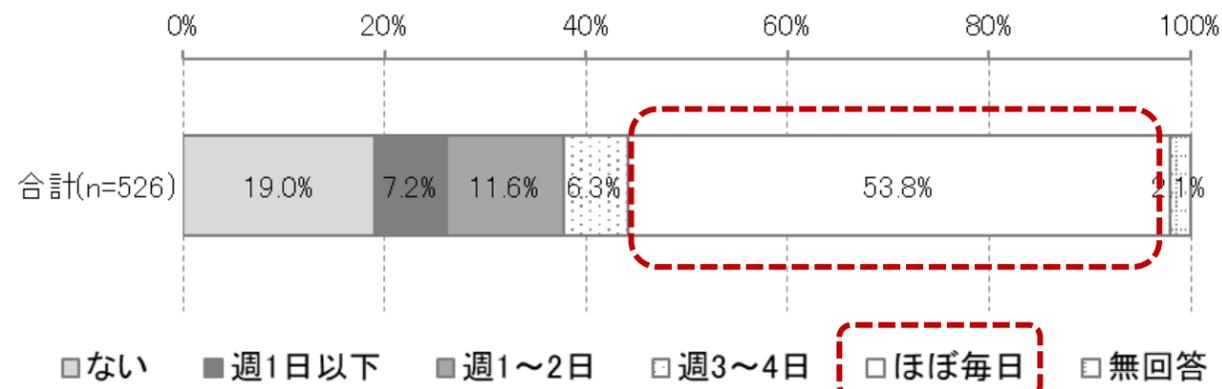
■ 介護者の就労状況



■ 就労状況×本人との関係



■ 介護の頻度

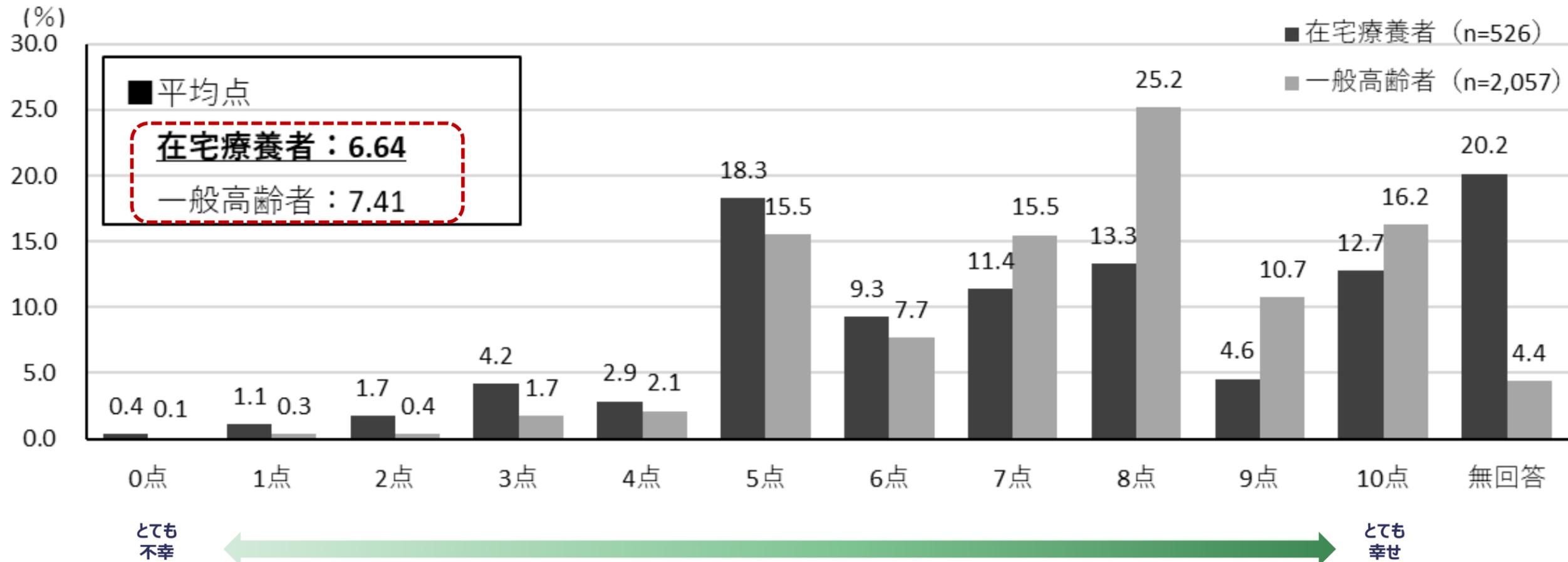


1. 在宅療養に関する最終アウトカム指標

主観的な幸福感

- 在宅療養者の幸福度の平均は6.64。一般高齢者の平均に比べると0.77ポイント低い

A票問15 現在どの程度幸せと感じていますか



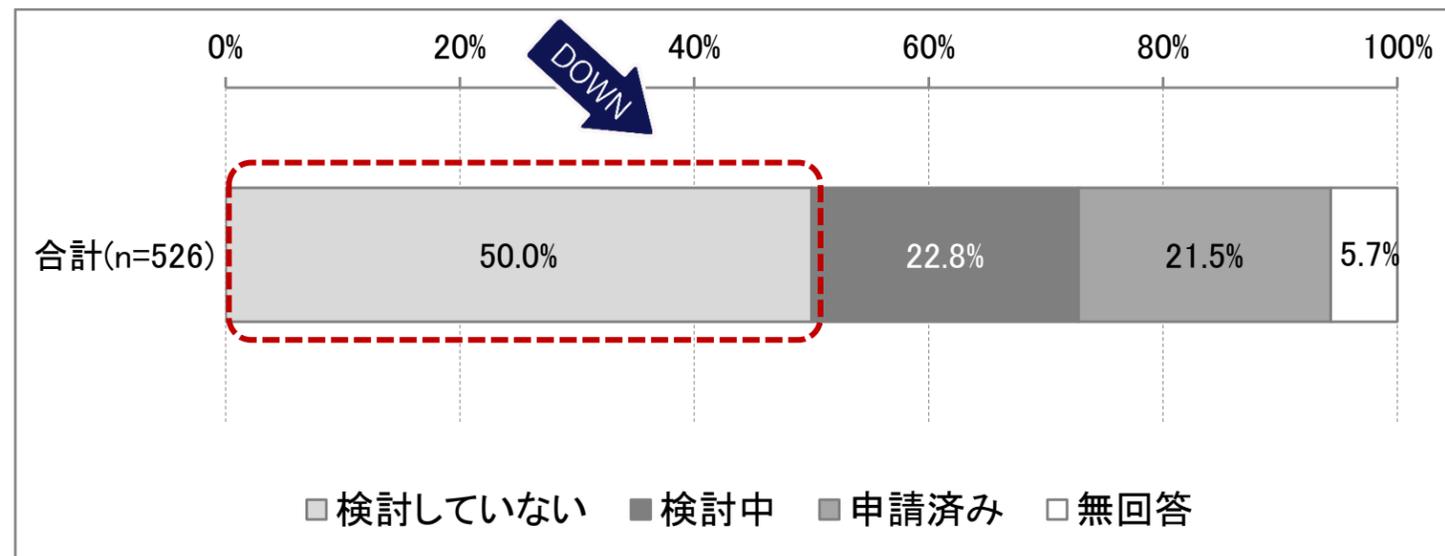
2. 「在宅生活の継続」に関するアウトカム指標

施設等検討の状況

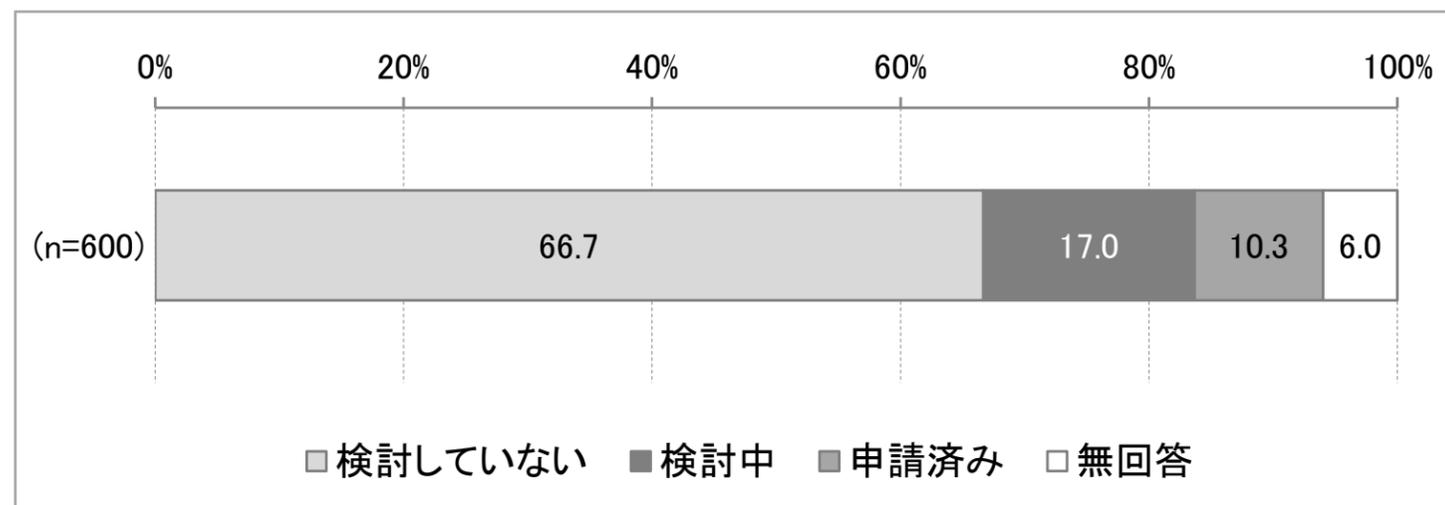
- 今回調査では施設等を「検討していない」が50.0%で最も多いが、申請済み、検討中もそれぞれ2割以上となっている
- 「検討していない」の割合を高めることが在宅介護のアウトカムの一つだが、前回調査の66.7%から大きく減少している

A票問10 現時点での施設等への入所・入居の検討状況

今回調査



前回調査

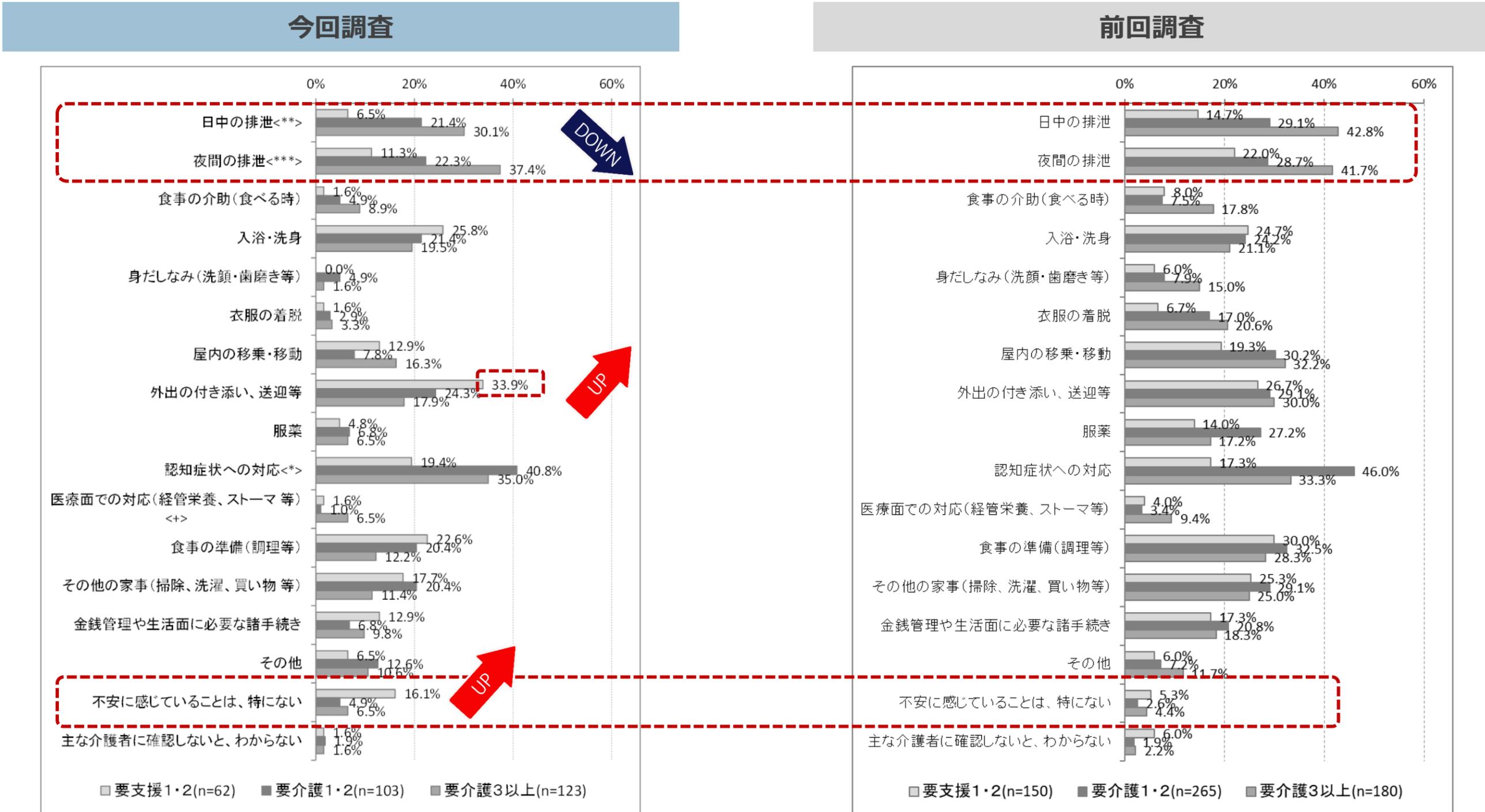


2. 「在宅生活の継続」に関するアウトカム指標

介護者が感じる不安

- 在宅生活の継続を支える介護者の不安感については、「不安に感じていることは、特にない」が前回調査よりどの介護度でも上昇しており、悪化はみられない
- 負担の大きい夜間・日中の排泄の項目についても、不安と回答している介護者の割合は減少している
- 一方、外出の付添・送迎の不安をあげる割合が、要支援1・2で前回調査よりも上昇している

B票問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護（要介護度別）



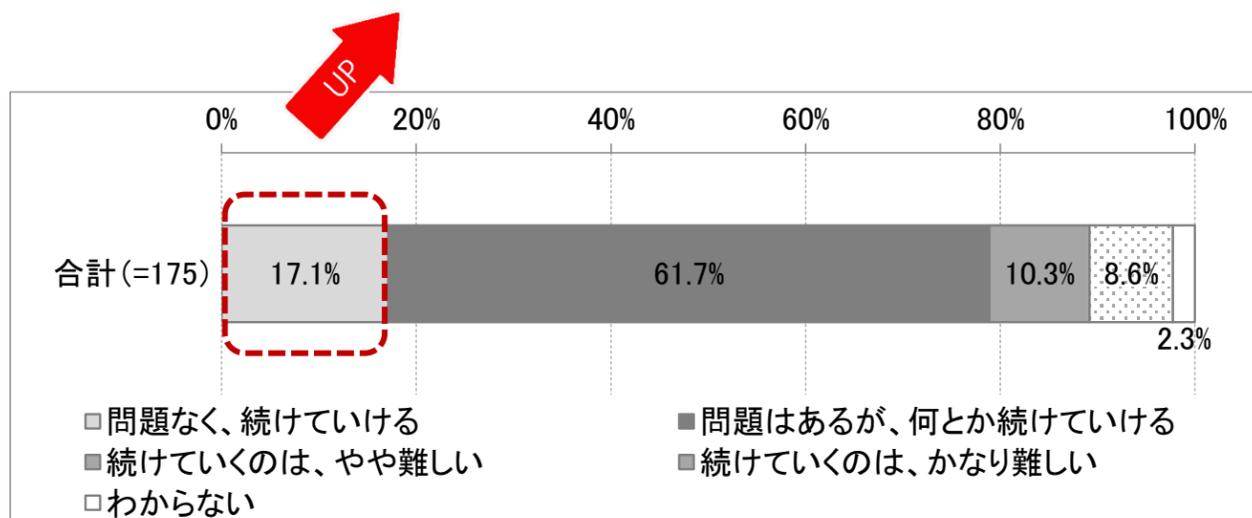
3. 「介護者の就労の継続」に関するアウトカム指標

就労継続見込み

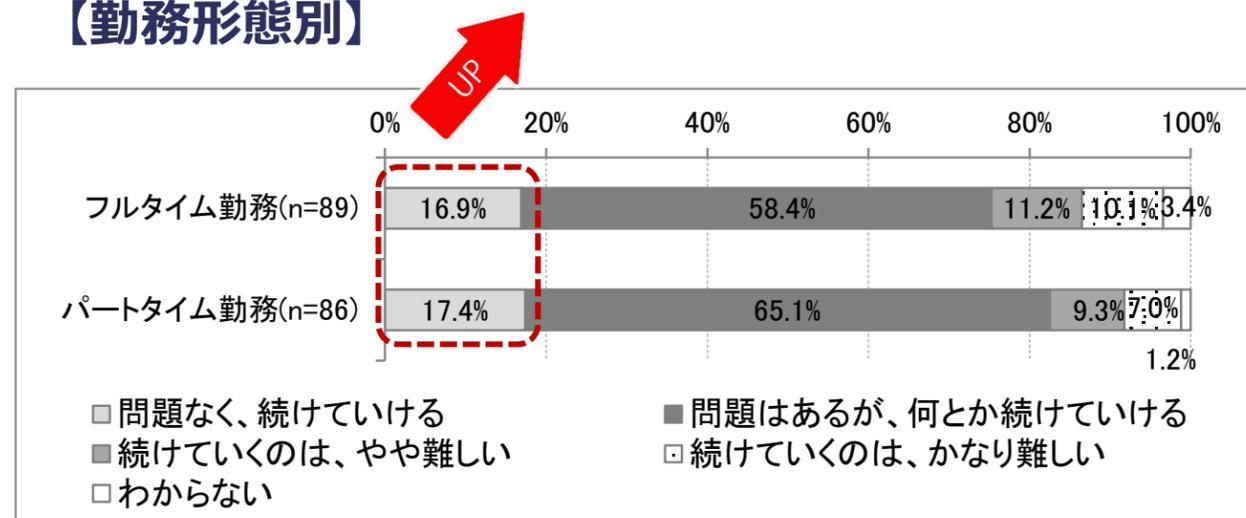
- 介護者の就労の継続に関する成果指標は、介護と仕事の両立を「問題なく続けていける」と回答する介護者の割合を増やすことである
- 今回、「問題なく続けていける」と回答した人は17.1%で、前回調査より微増している
- 勤務形態別にみてもフルタイム、パートタイムともに微増しているが、フルタイム勤務者自体が減っていることは一方で問題といえる

B票問4 今後も働きながら介護を続けていけそうですか

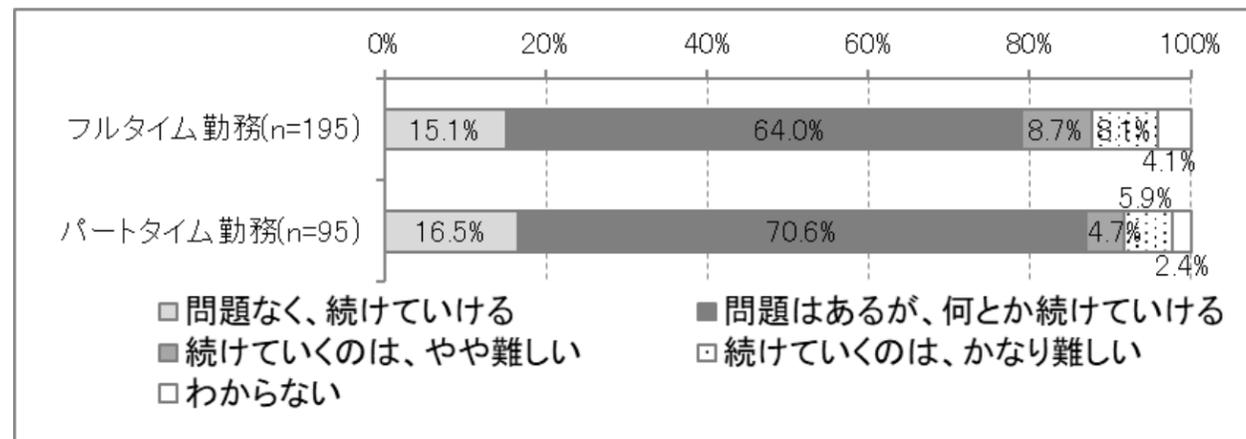
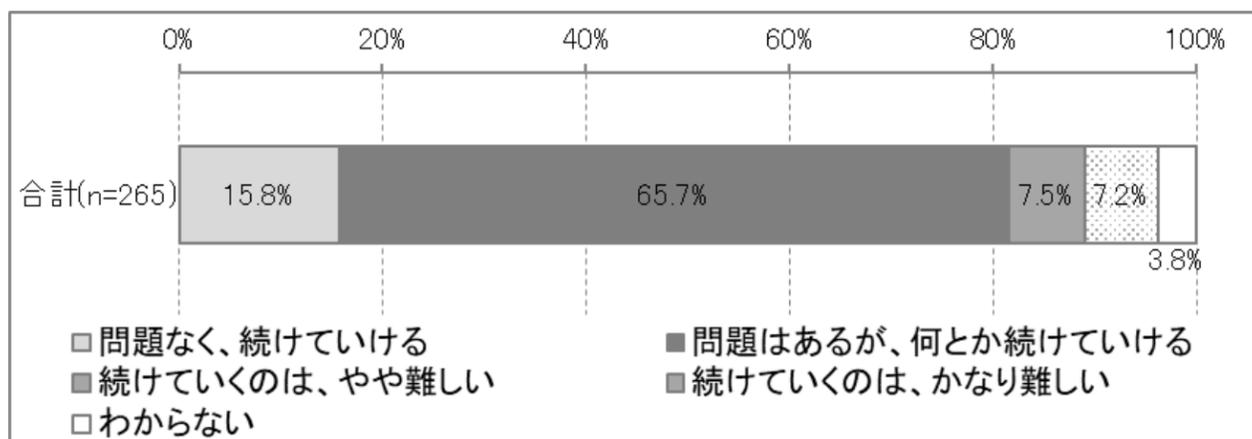
今回調査



【勤務形態別】



前回調査

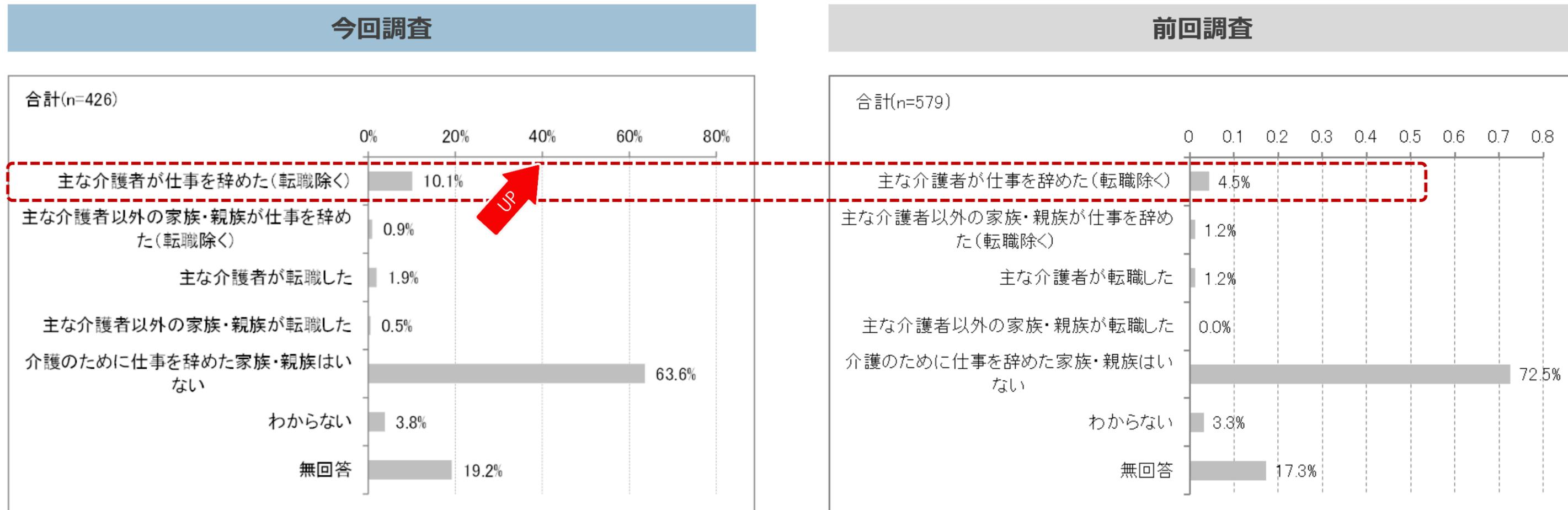


3. 「介護者の就労の継続」に関するアウトカム指標

介護のための離職の有無

- 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く63.6%となっている
- 「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は10.1%で、前回調査よりも5ポイント以上上昇している

A票問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）

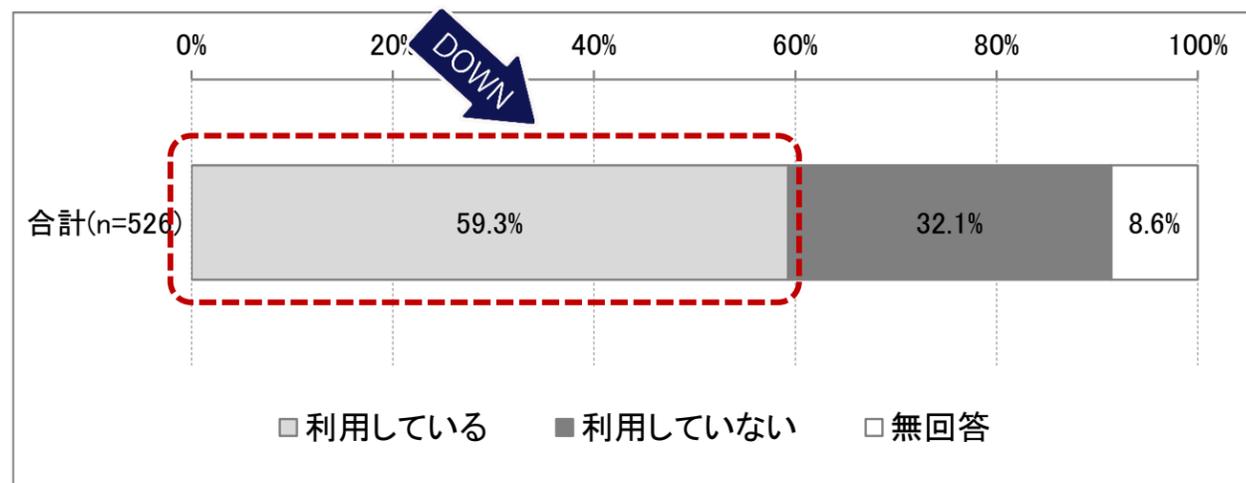


4. サービス利用の状況

介護保険サービスの利用の有無

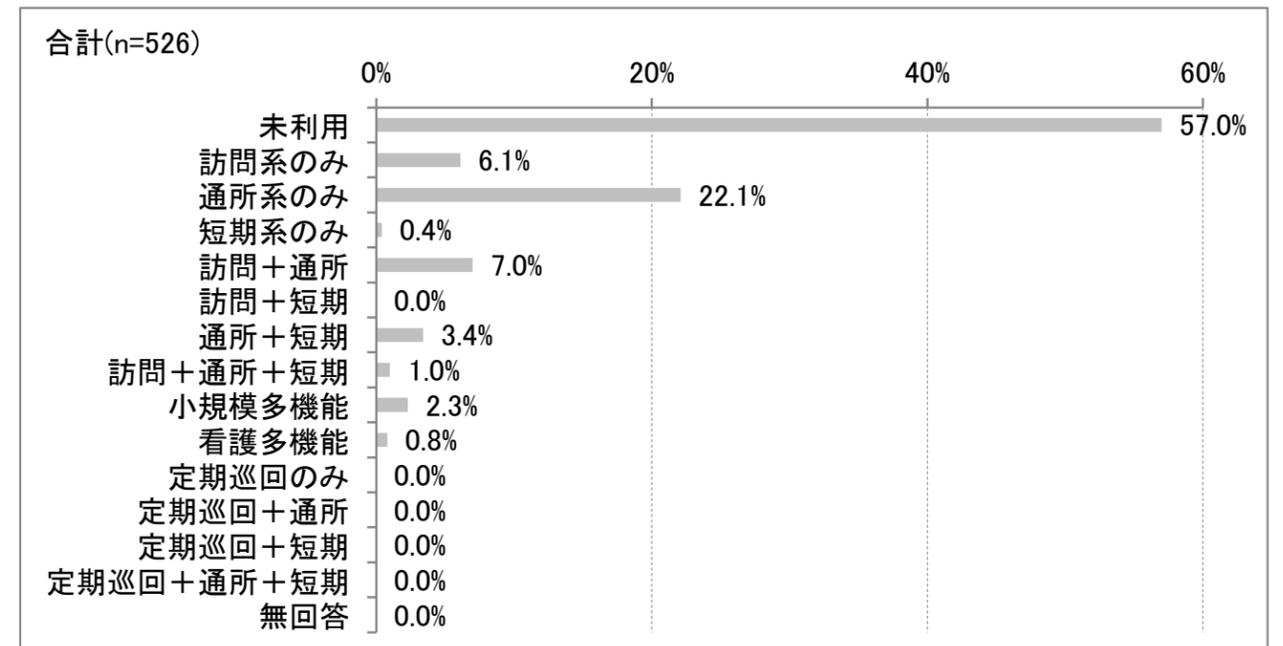
- 「利用している」の割合が59.3%と「利用していない」(32.1%)より高くなっているが、前回調査よりも微減している

A票問13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか



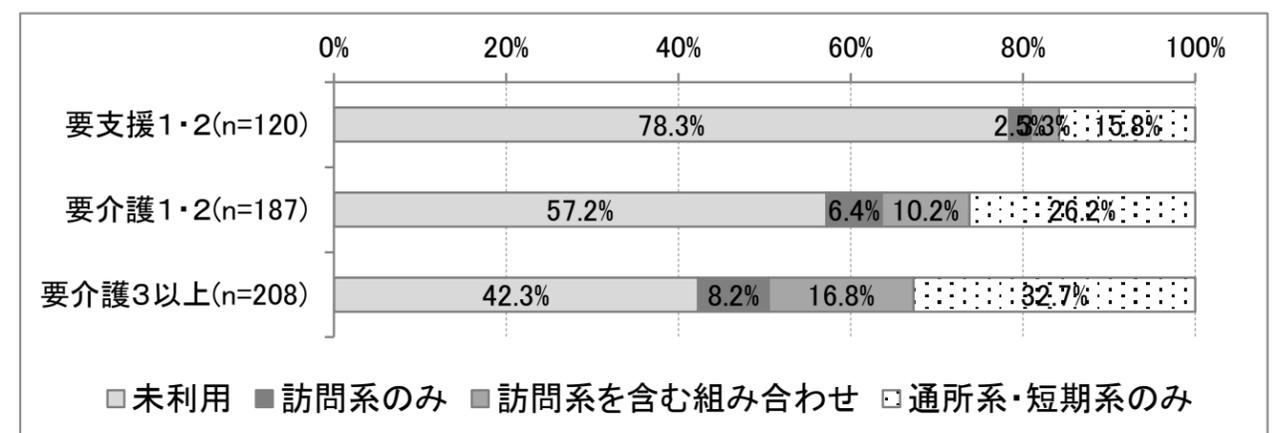
サービス利用の組み合わせ

- 「未利用」の割合が最も高く57.0%となっている。次いで、「通所系のみ」(22.1%)、「訪問+通所」(7.0%)となっている



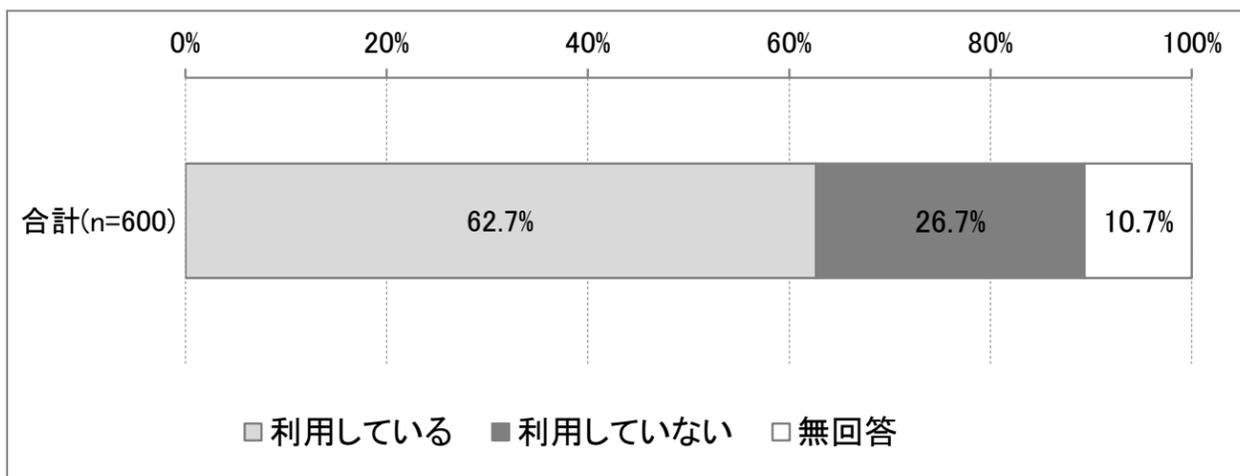
【要介護度別】

- 「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」の組み合わせが32.7%と多くみられる



今回調査

前回調査

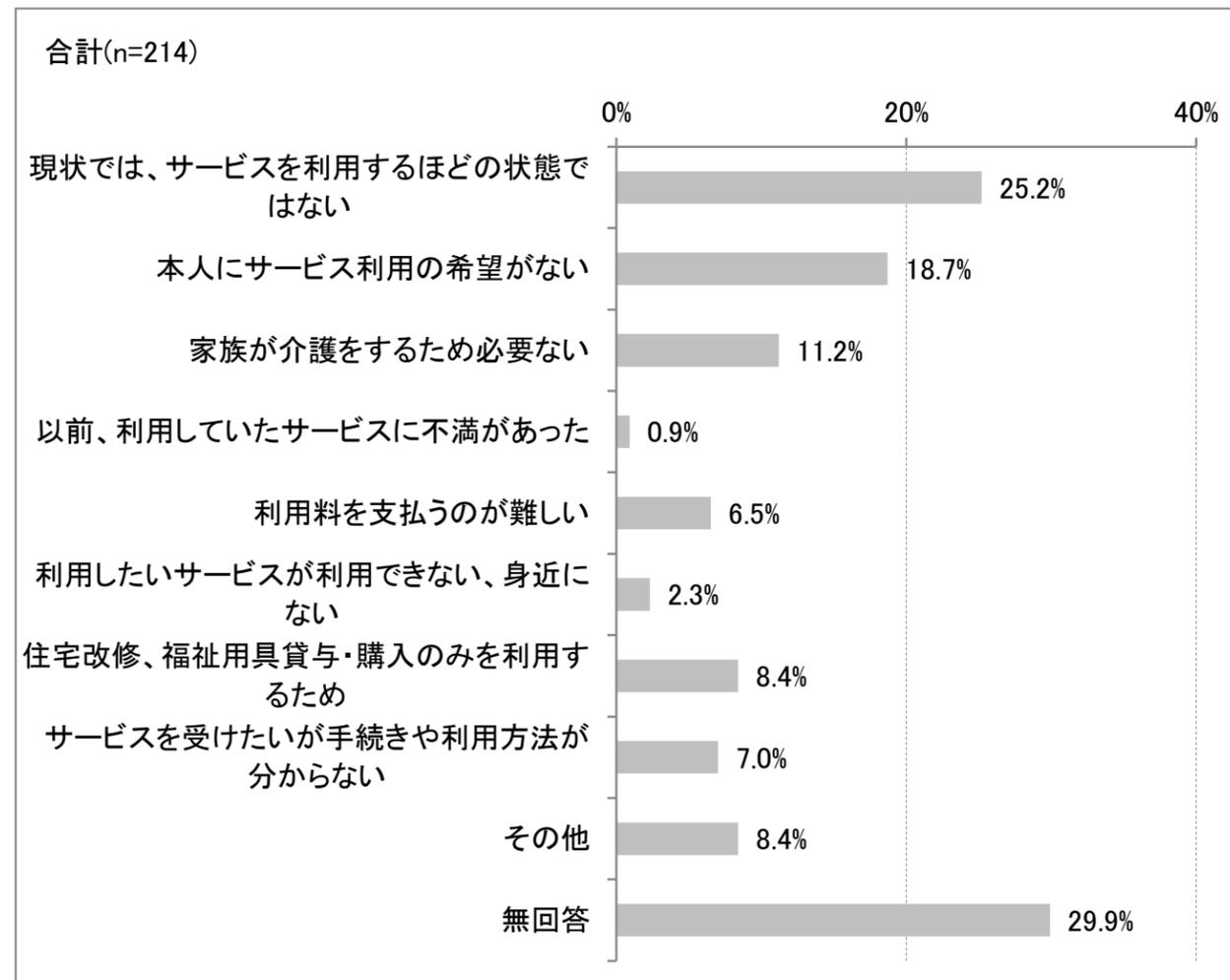


4. サービス利用の状況

介護保険サービス未利用の理由

- 「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く25.2%となっている。次いで、「本人にサービス利用の希望がない(18.7%)」、「家族が介護をするため必要ない(11.2%)」となっている

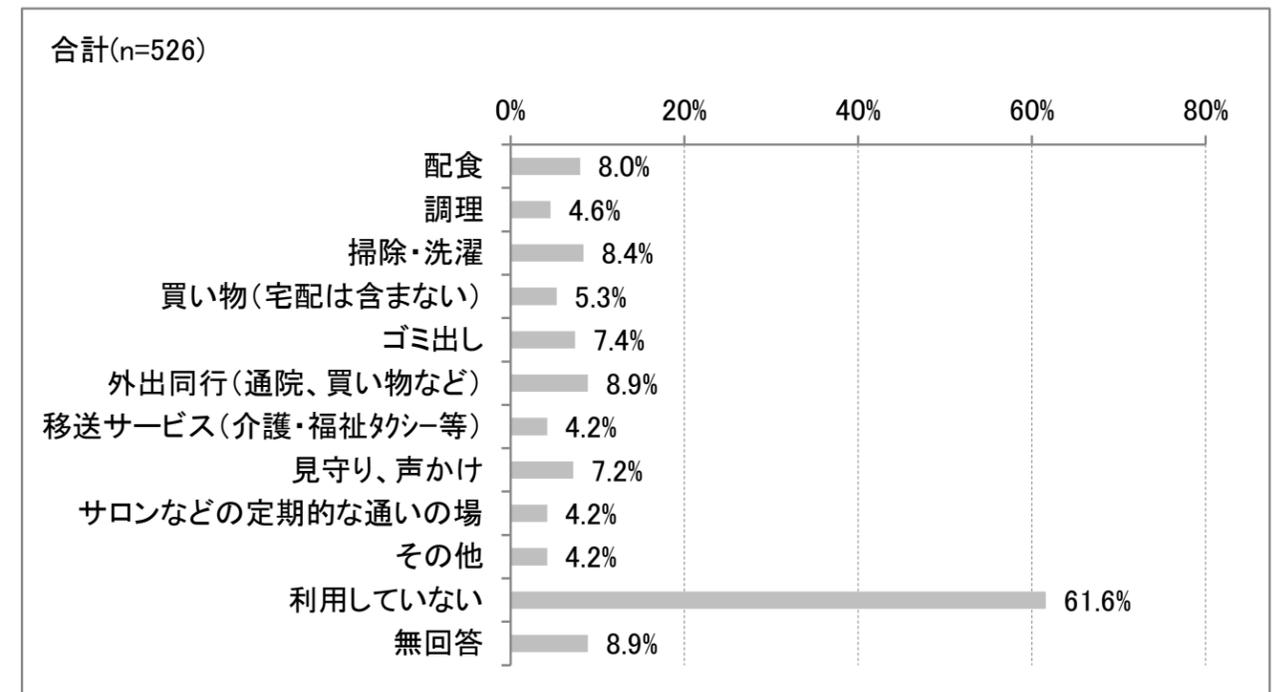
A票問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか



保険外の支援・サービスの利用状況

- 「利用していない」の割合が最も高く61.6%となっている。次いで、「外出同行(通院、買い物など)(8.9%)」、「掃除・洗濯(8.4%)」となっている

A票問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスは何ですか

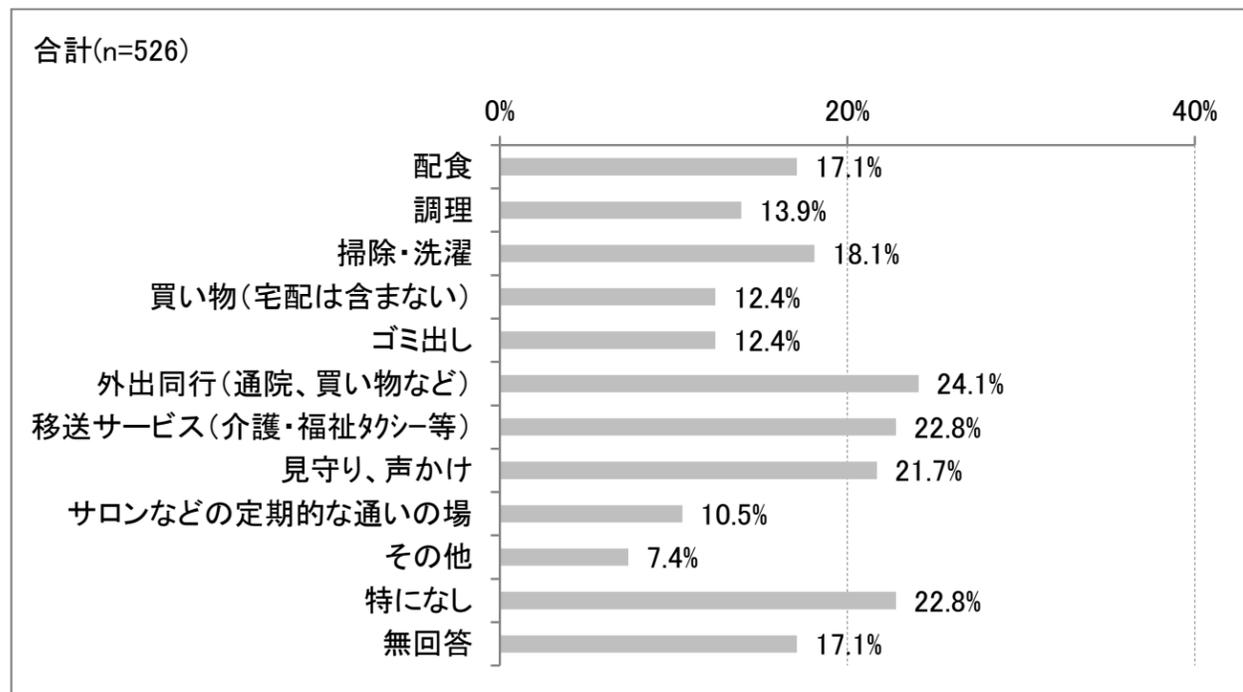


4. サービス利用の状況

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

- 「利用していない」の割合が最も高く61.6%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）(8.9%)」、「掃除・洗濯(8.4%)」となっている

A票問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について

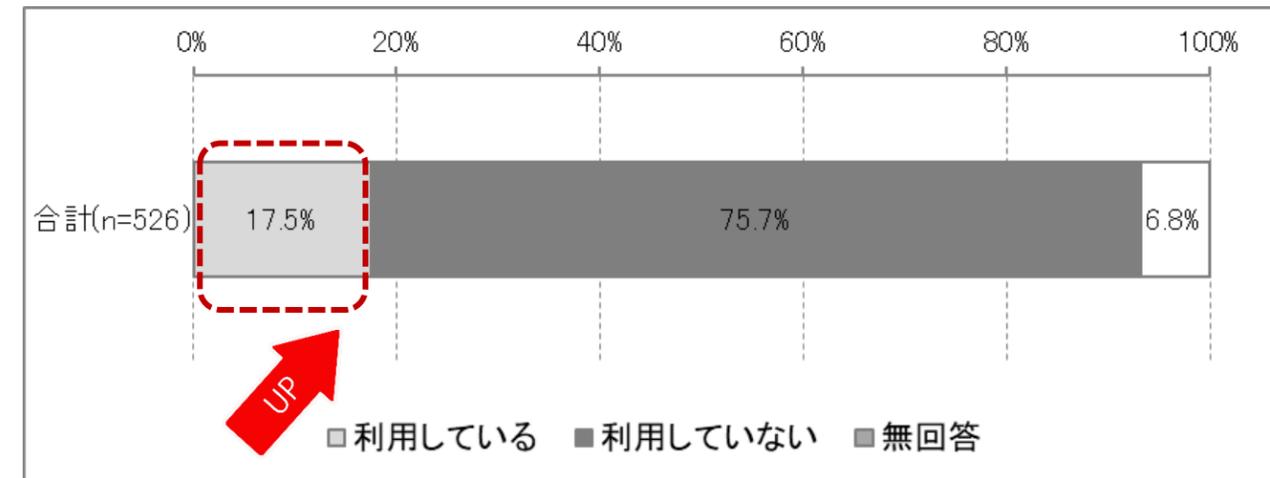


訪問診療の利用の有無

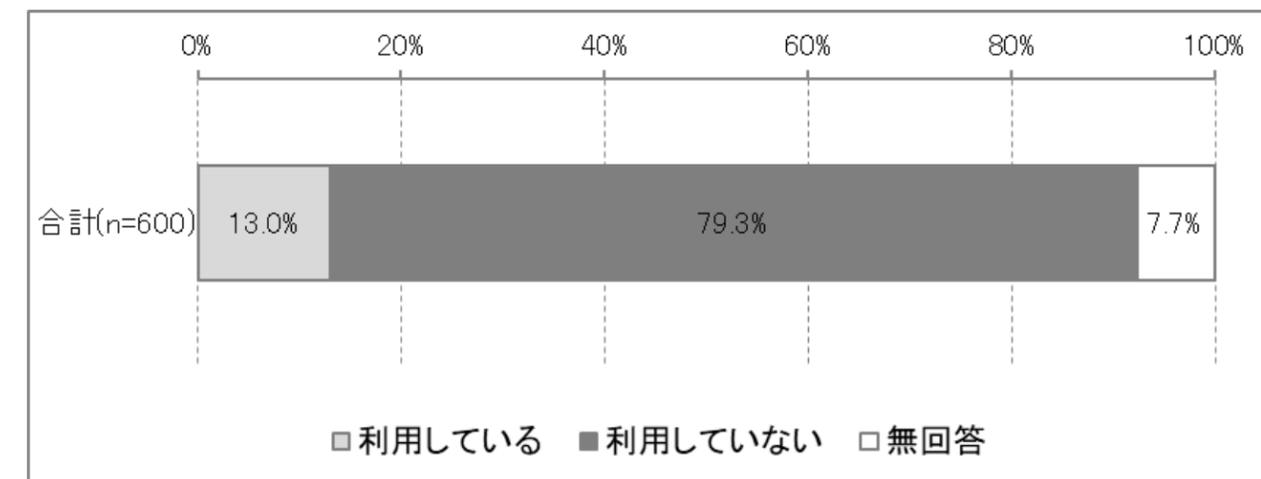
- 訪問診療は「利用していない」の割合が最も高く75.7%、「利用している」は17.5%となっている
- 前回調査に比べ利用率は4.5%あがっている

A票問12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか

今回調査



前回調査

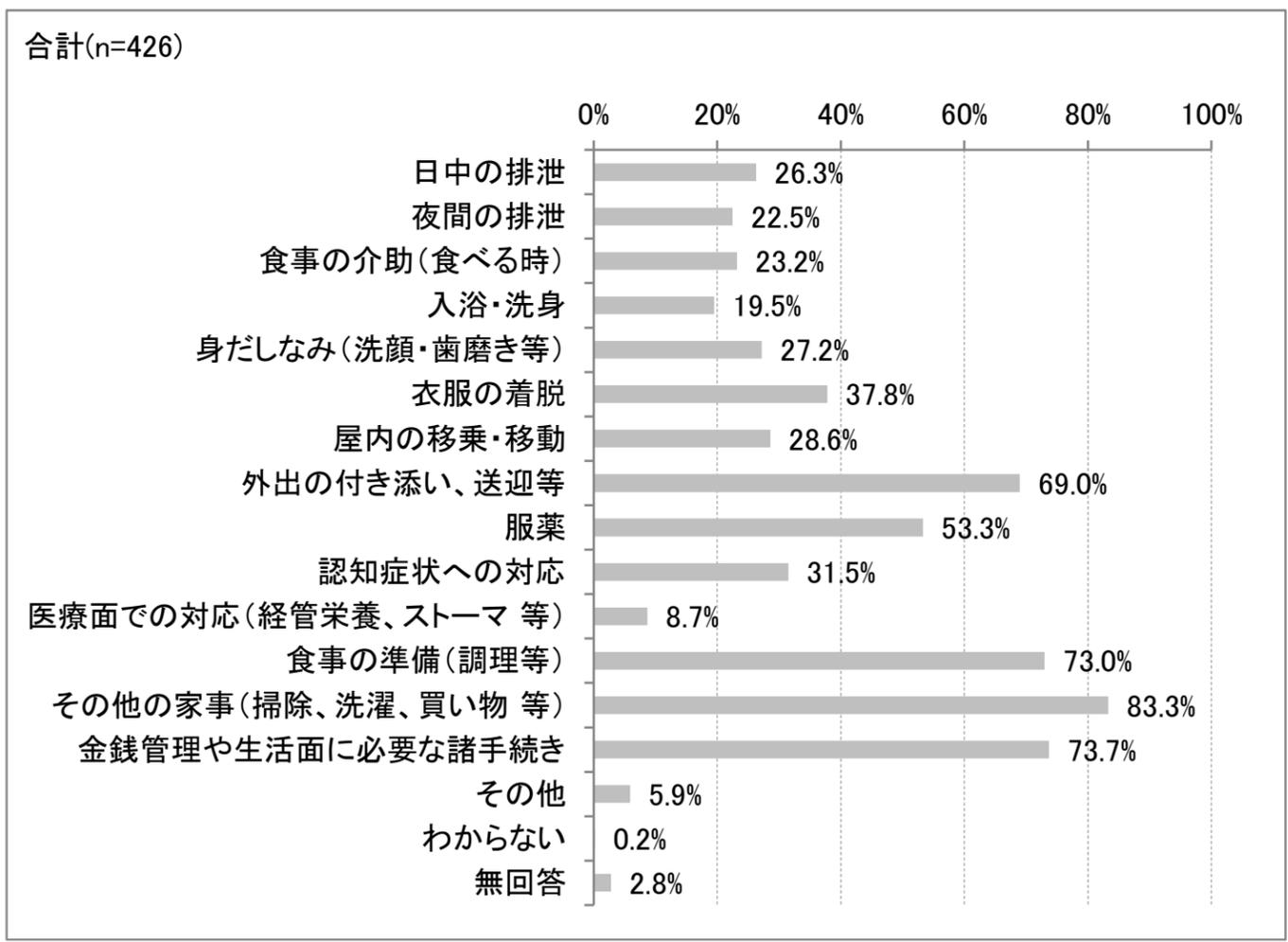


5. 介護者の介護負担と仕事との両立について

主な介護者が行っている介護

- 「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」の割合が最も高く83.3%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き(73.7%)」、「食事の準備(調理等)(73.0%)」となっている

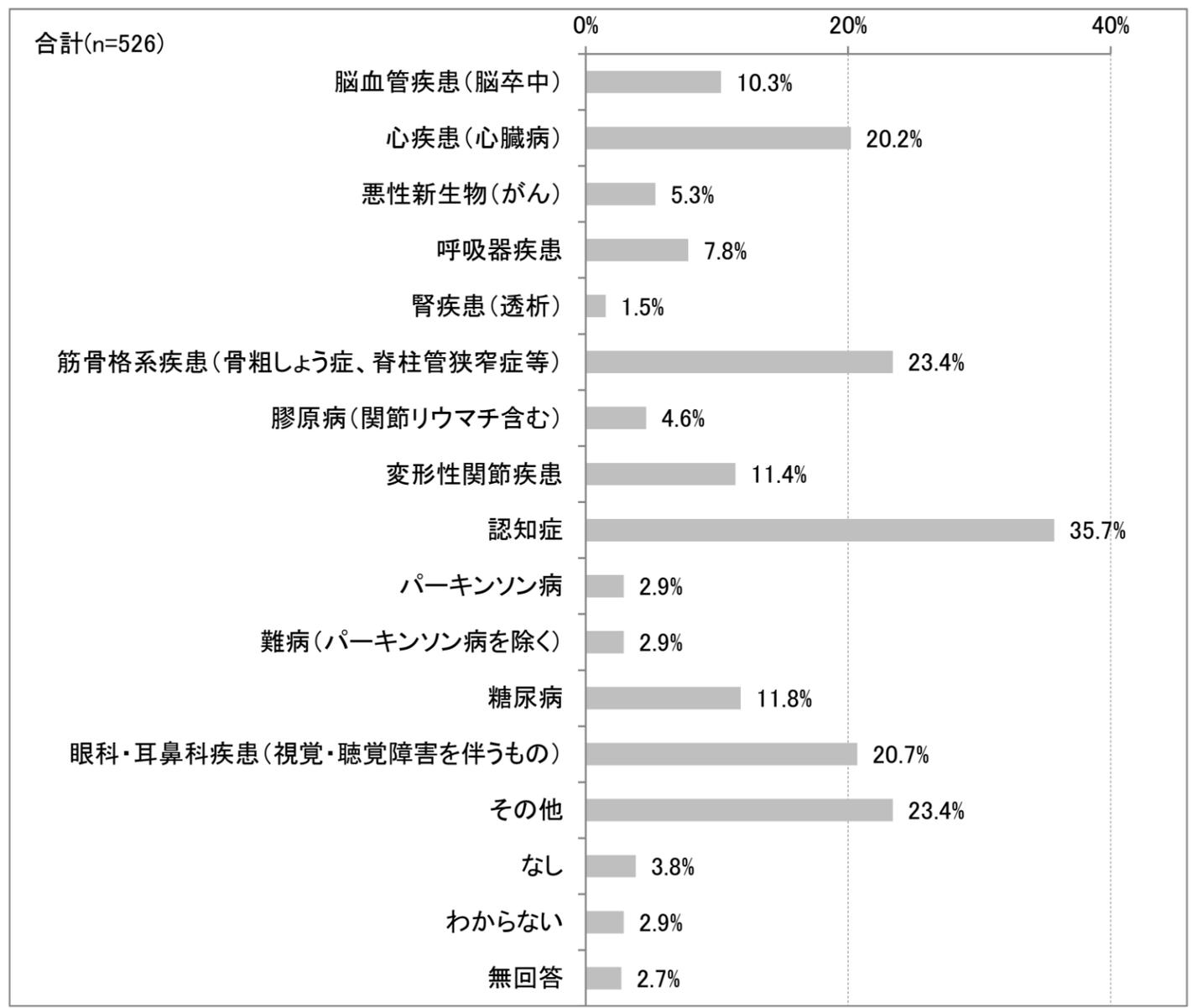
A票問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について



調査対象者の現在抱えている疾病

- 認知症が最も多く35.7%、次いで筋骨格系疾患、その他、心疾患が2割以上となっている

A票問11 ご本人が、現在抱えている傷病について

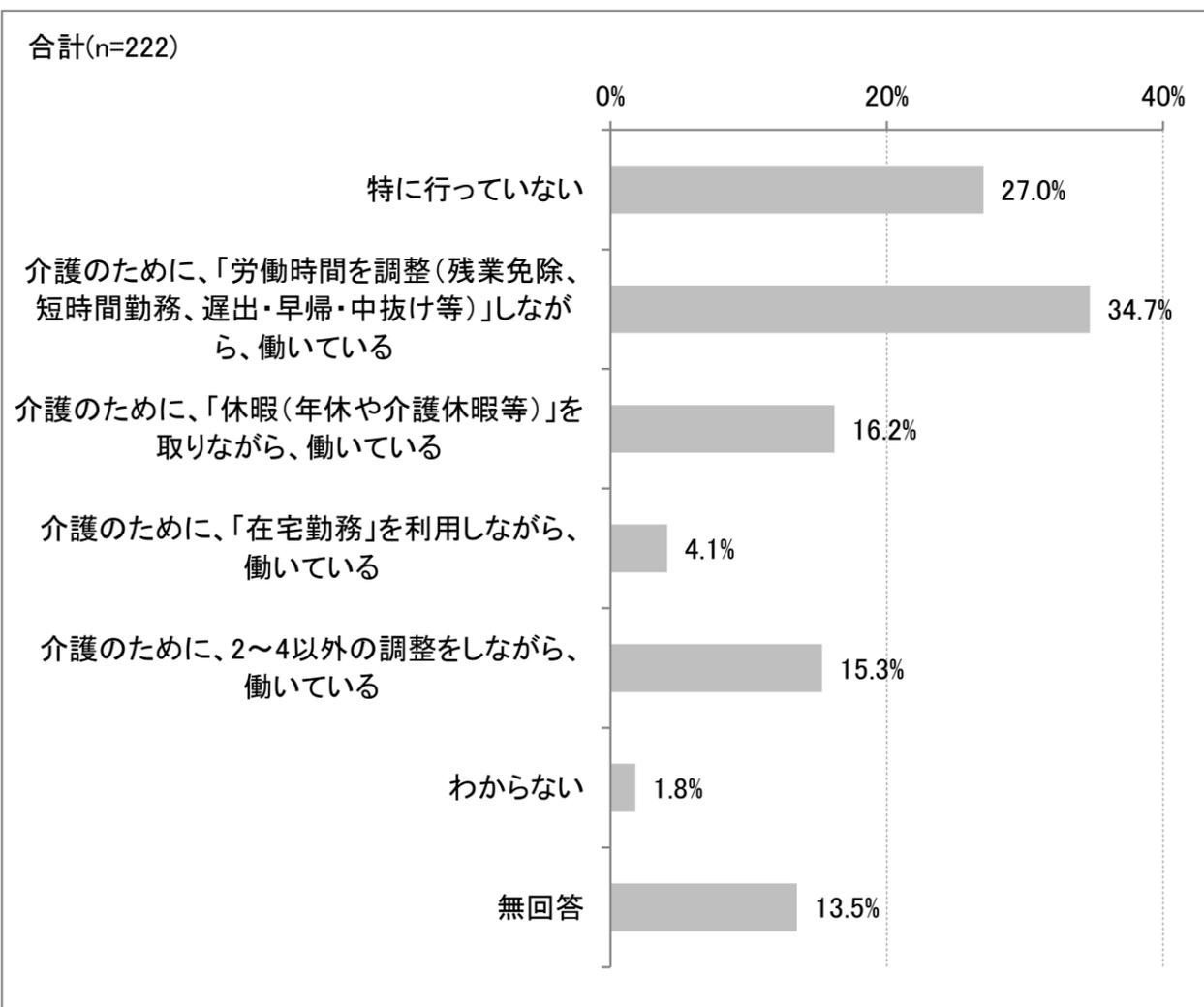


5. 介護者の介護負担と仕事との両立について

主な介護者の方の働き方の調整の状況

- 「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」の割合が最も高く34.7%となっている
- 次いで、「特に行っていない(27.0%)」、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている(16.2%)」となっている

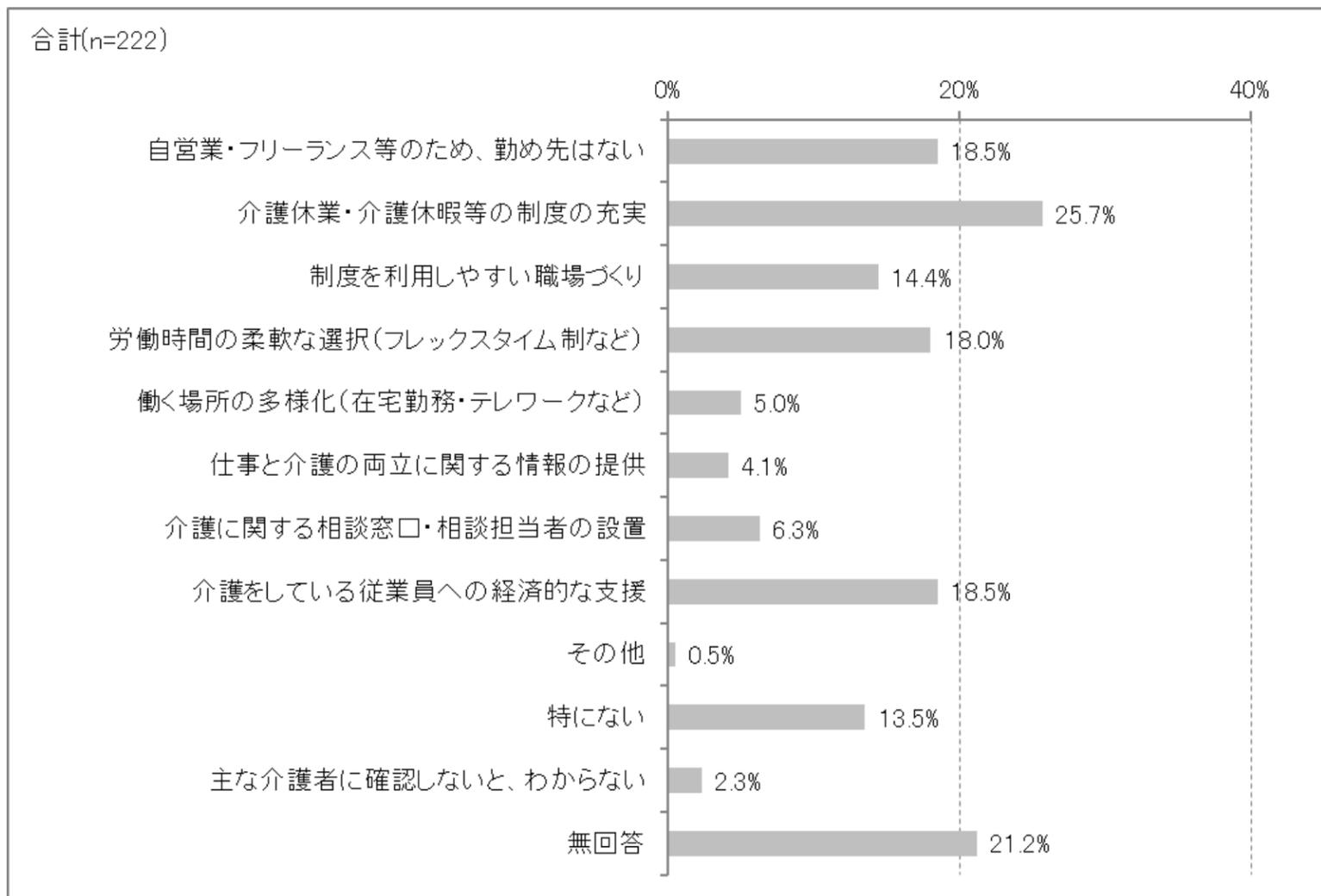
B票問2 介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか



就労の継続に向けて効果的と考えられる勤め先からの支援

- 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く25.7%となっている
- 次いで「介護をしている従業員への経済的な支援(18.5%)」、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)(18.0%)」となっている

B票問3 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか

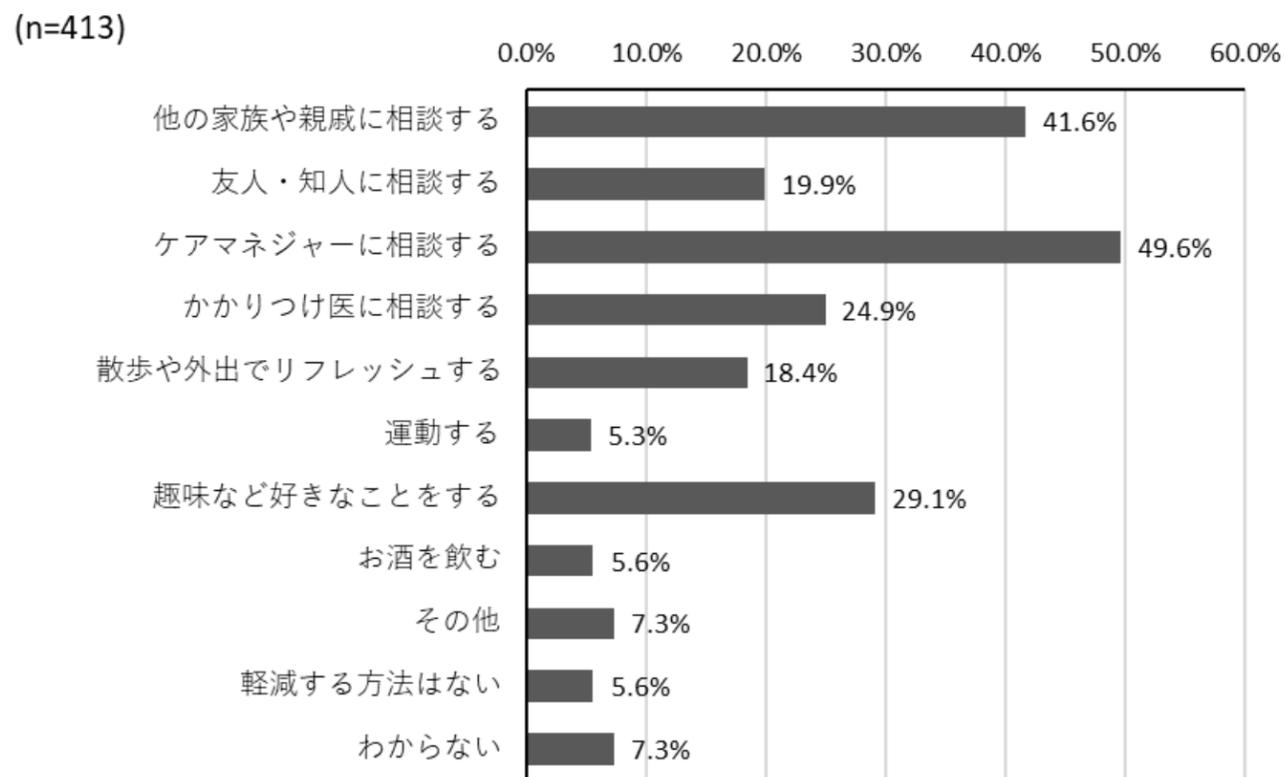


6. 介護者の不安について

不安やストレスの軽減方法

- 介護者が感じる不安やストレスの軽減方法は、「ケアマネに相談する」、「他の家族や親戚に相談する」、「趣味など好きなことをする」の順で高い
- 仕事の継続がかなり難しいとする介護者で、ケアマネやかかりつけ医に相談する割合が高くなる一方、軽減する方法はないという回答も高くなっている

B票問6 在宅での介護を続けるにあたって日常的に感じている不安やストレスをどのように軽減していますか ☆独自設問



【仕事の継続見込み別】

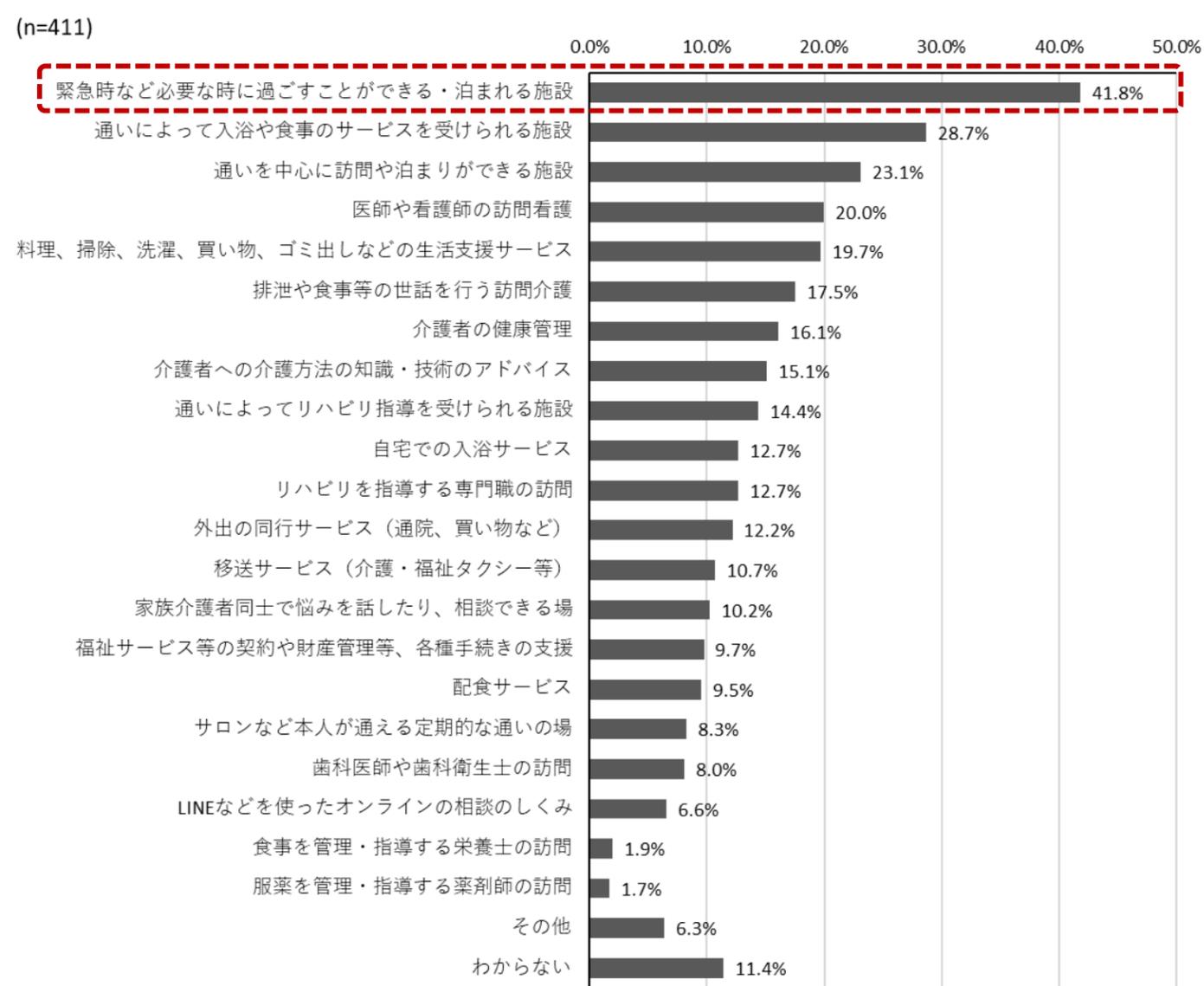
	他の家族や親戚に相談する	友人・知人に相談する	ケアマネジャーに相談する	かかりつけ医に相談する	散歩や外出でリフレッシュする	運動する	趣味など好きなことをする	お酒を飲む	その他	軽減する方法はない	わからない
問題なく、続けていける (n=28)	35.7%	25.0%	39.3%	21.4%	21.4%	3.6%	17.9%	7.1%	3.6%	0.0%	7.1%
問題はあるが、何とか続けていける (n=97)	48.5%	23.7%	53.6%	22.7%	17.5%	4.1%	28.9%	3.1%	7.2%	6.2%	2.1%
続けていくのは、やや難しい (n=20)	30.0%	20.0%	40.0%	25.0%	20.0%	5.0%	35.0%	10.0%	5.0%	15.0%	5.0%
続けていくのはかなり難しい (n=13)	46.2%	7.7%	69.2%	30.8%	30.8%	7.7%	15.4%	0.0%	7.7%	15.4%	0.0%
全体 (n=413)	41.6%	19.9%	49.6%	24.9%	18.4%	5.3%	29.1%	5.6%	7.3%	5.6%	7.3%

● 介護者の不安について

不安やストレスを軽減するサービス・支援の利用について

- 全体では、不安やストレスと軽減できるサービス・支援は、「緊急時などに過ごす・泊まれる施設」が突出して高くなっている
- 仕事の継続見込み別にみると、問題はある何とか続けていけると回答した介護者で、「通いの入浴・食事サービス」、続けていくのはかなり難しいという介護者で「通いを中心に訪問や泊まりができる施設」「生活支援サービス」「排泄や職時等の世話をを行う訪問介護」が全体より特に高くなっている

B票問7 どのようなサービスや支援を利用すれば、そうした不安やストレスを少しでも軽減できるでしょうか ☆独自設問



【仕事の継続見込み別】（上位）

	緊急時などに必要な時に過ごすことができる・泊まれる施設	通いによって入浴や食事のサービスを受けられる施設	通いを中心に訪問や泊まりができる施設	医師や看護師の訪問看護	料理、掃除、洗濯、買い物、ゴミ出しなどの生活支援サービス	排泄や食事等の世話をを行う訪問介護	介護者の健康管理	介護者への介護方法の知識・技術のアドバイス	通いによってリハビリ指導を受けられる施設
問題なく、続けていける (n=28)	32.1%	28.6%	25.0%	14.3%	21.4%	14.3%	17.9%	14.3%	25.0%
問題はあるが、何とか続けていける (n=94)	45.7%	41.5%	28.7%	17.0%	25.5%	22.3%	8.5%	14.9%	14.9%
続けていくのは、やや難しい (n=18)	50.0%	27.8%	27.8%	22.2%	16.7%	22.2%	16.7%	5.6%	16.7%
続けていくのはかなり難しい (n=14)	28.6%	35.7%	42.9%	21.4%	42.9%	57.1%	28.6%	14.3%	28.6%
全体 (n=411)	41.8%	28.7%	23.1%	20.0%	19.7%	17.5%	16.1%	15.1%	14.4%